



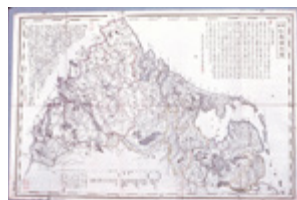
「鷹見泉石像模写図」
(古河歴史博物館蔵)※原本は国宝

鷹見 泉石 たかみ せんせき

天明5年(1785)－安政5年(1858)

日本最初のオランダ地図を
制作した蘭学者

古河市



鷹見泉石作「新訳和蘭国全図」
(古河歴史博物館蔵)※国重要文化財

古河の生まれ。古河藩士鷹見忠徳の長男として生まれ、諱は忠常。隠居後、泉石と名乗る。ヤン・ヘンドリック・ダブルというオランダ名も使った。幼少の時、江戸に移り藩主土井利厚・利位に仕え、その後家老となり大塩平八郎の探索でも功をあげた。海外情報の収集に生涯熱意を傾け、オランダ語や英語などにも関心を向ける。天文学・地理学にも詳しく、広範囲にわたり西洋の文物を収集する。泉石が作成した『新訳和蘭国全図』は、幕府の許可を得て板行されて、鎖国下における日本人に国際感覚の必要性を促した。また約80冊におよぶ『鷹見泉石日記』は、同時代の政治史、対外関係史、文化史などの面で貴重な資料として残る。

主な内容

- ▼ 北関東3県合同会議を開催
- ▼ 県土木部と意見交換
- ▼ 建設現場実習がスタート
- ▼ 県土木部と防災訓練実施

本会ホームページに「茨建協ニュース」の内容を掲載しています。ご活用ください。

**本会はコンプライアンス(法令遵守)を
さらに徹底します**

発行 (一般社団法人) 茨城県建設業協会

〒310-0062 茨城県水戸市大町 3-1-22

電話 029-221-5126 (代)

H P <http://www.ibaken.or.jp/>

編集 日本工業経済新聞社・水戸支局

週休二日、女性活躍へ協議

茨 城 群 馬 栃 木**北関東3県建設業協会合同会議**

茨城、栃木、群馬の北関東3県の第38回建設業協会合同会議が7月25日、茨城県大洗町の大洗パークホテルで開かれました。議事で本会では「週休二日制の推進」「女性技術者活躍のための支援」について提案。他県からの課題についても意見を交換し、直面している課題の解決へ議論しました。



3県が直面している課題について意見を交わしました

主催県を代表して本会の石津健光会長は、公共事業予算の増額など建設業界にとって朗報がある一方、若手入職者の確保が厳しいなど構造的な問題に加え、働き方改革や生産性向上、特定技能外国人の受け入れなど変革の波にさらされていると指摘。

新担い手3法の成立を踏まえ、建設業界の新3K（給料が良い、休日が取れる、希望が持てる）の実現へ「ぜひとも改正法の趣旨徹底と運用指針の早期改定をお願いしたい。さらに甚大化している自然災害に対応する地域の『守り手』としての役割を今後も果たしていくためには、地域の建設業の安定した経営の継続が不可欠である。意見交換は共通認識を深め、連携を高める絶好の機会である。有意義な会議に」と望みました。

群馬県協会の青柳剛会長は、自県の取り組みが他県でも展開されていることが隣県同士の意見交換の成果と強調。「本日は他県からのテーマも参考に、生産性の向上、人材の確保などの議論が



石津茨城県会長



青柳群馬県会長



谷黒栃木県会長

できていると思っている。自然災害が繰り返される昨今、業界がまとまって本来の役割を発信していくことが大事になる」と述べました。

栃木県協会の谷黒克守会長は、地域建設業が地域の守り手としての役割を果たしており、国民の信頼と期待を獲得するよう努めていくことが大切と訴え、「意見交換によって3県のさらなる連携が図られ、有意義な会議になるよう期待する」とあいさつしました。

来賓からは国土交通省常陸河川国道事務所の原田昌直所長が、「社会資本の整備やインフラの維持管理対策などを進めていくためには、建設業界と連携していくことが不可欠になる。引き続きご協力を」と望みました。

茨城県土木部の大野谷祐二技監（総括）は茨城県内のインフラ整備状況を紹介するとともに「地域の建設業が健全に発展し求められる役割を果たすための意見交換を期待している」と述べました。

その後は活発に意見交換を行いました。

外国人材受け入れ、熱中症対策

3県合同会議・意見交換の内容

【週休二日制の推進（茨城県提案）】

- ◆茨城県＝毎月第二土曜日を県内公共工事の一斉休工日としている。各県の取り組みはどうか。
- ◆群馬県＝県が試行工事などで課題などを検証し、改善していくことにしている。
- ◆栃木県＝県でモデル工事が行われており、日給・月給労働者の処遇、工期などの課題解決へ協力していく。

【女性技術者活躍への支援（茨城県提案）】

- ◆茨城県＝本会では400人以上の女性技術者が勤務している。女性の入職促進・定着へ女性技術者の支援組織を立ち上げる準備をしている。
- ◆群馬県＝「環境すみずみパトロール」として女性の目線から5S活動（整理、整頓、清掃、清潔、しつけ）を展開している。
- ◆栃木県＝女性や若者が建設業に興味をもってもらう広報活動を行っており、「とちぎ女性活躍応援団」に参加して情報交換を行っている。

【小雪時の除雪業務、体制（群馬県提案）】

- ◆群馬県＝近年は降雪が少なく、小雪時でも体制が維持できる経費確保や待機時間の計上方法の検討が課題になっている。
- ◆栃木県＝県から除雪を含む維持管理業務を受託しており、降雪が少ない年でも最低限の待機補償を要望していく。
- ◆茨城県＝路面凍結時の作業が多く、ボランティア精神で行っている。総合評価で冬季時地域貢献として加点対象となっている。

【熱中症対策費用（群馬県提案）】

- ◆群馬県＝国土交通省では現場管理費の補正が行わ



本会からは週休二日制の推進などを提案しました

れているが、県では補正が適用されず、現場環境改善費を積極的に活用している。

- ◆栃木県＝県で現場管理費の補正が行われている。
- ◆茨城県＝国の基準に準拠した対応を要望していく。

【外国人材受け入れの課題（栃木県提案）】

- ◆栃木県＝「とちぎ外国人材活用促進協会」が設立され推進されているが、言葉や受入経費など多くの問題点がある。
- ◆群馬県＝外国人材の受け入れについては必要で、情報収集に努めていく。
- ◆茨城県＝外国人材は大切と考えており、情報収集などに努めていく。

【建設キャリアアップシステムの普及促進（栃木県提案）】

- ◆栃木県＝県内業者への広報や円滑な申請に協力しているが、登録数は他県に後れを取っている。
- ◆群馬県＝モデル現場や代行申請により普及に努めていく。
- ◆茨城県＝登録の利点などを周知していく。

週休二日で取組証が発行

県土木部と意見交換会



施工上の課題などについて意見を交換しました

本会は、施工に関する茨城県土木部との意見交換会を8月1日に水戸市の茨城県開発公社ビルで開催。本会からは適正な工期設定、完全週休二日制の促進、ICT活用工事、熱中症対策について質問し、協議を行いました。

県では完全週休二日工事について、国と同様の

「履行実績取組証」を発行すると説明。ICT活用工事は工事成績評定で評価し、熱中症対策では国と同様に現場管理費の補正を行うと回答しました。

そのほか本会からは、技能継承について要望。技能者の高齢化で大量離職が懸念され、一方で若年者の入職は少なく、技能の継承が危ぶまれると指摘。各専門工事業の現場では高度の技能を習得することが不可能になっており、県発注工事で技能者の育成、技能継承のためにも左官やタイルなどの工事を設計に含めて発注をと要望しました。

あいさつで石津会長は「率直な意見交換によって、今後の業界のあり方、方向性についてご指導を」と述べました。意見交換会には、本会から正副会長、支部長、委員長が出席しました。

大藤副会長、高野常任理事が国土交通大臣表彰 おめでとうございます

本会の大藤博文副会長、高野潔常任理事が、令和元年度の国土交通大臣表彰（建設事業関係功労）を受賞されました。まことにありがとうございます。ますますのご活躍を祈念いたします。

昭和26年10月17日生まれ、67歳。昭和63年12月より(株)大藤組代表取締役。

本会では平成19年に理事、平成30年に副会長。大子支部では平成22年から支部長を務め、地方建設業の発展に大きく貢献されています。

大藤副会長

「受賞は石津健光会長や諸先輩方によるお力添えのたまものです。より良い社会資本整備のため『地域住民とともに』をモットーに頑張っています」



大藤博文副会長

昭和24年3月19日生まれ、70歳。平成5年より(株)高野工務店代表取締役社長。

本会では平成22年より常任理事。常陸大宮支部では平成27年より支部長を務め、地域建設業の発展に大きく寄与されています。

高野常任理事

「石津健光会長をはじめ役員の方々、関係者の皆様までご支援のたまものと感謝申し上げます。受賞に恥じぬよう、業界発展のため精進してまいります」



高野潔常務理事

発注者の理解大切

県建築関連団体と意見交換



本会の石津健光会長と建築委員会は、「県建築関連団体交流」（会長・柴和伸県建築士会会長）との意見交換を6月27日に行いました。本会からは、週休二日制の推進や技能継承について問題提起を行い、発注者や地域、若い人たちに建設業の実情への理解を深めてもらう取り組みが大切と訴えました。

建設業へ就職を！

現場実習スタート



本会が取り組んでいる高校生や専門学校生を対象とした今年度の「建設現場実習」が始まりました。会員の皆さまには9校から約220人の生徒を受けれていただきます。

現場実習では、全体実習の後、生徒たちに建設業の仕事内容や役割などを体験してもらうことで、建設業への就職を促します。

委員会活動報告

外国人受入を研修

人財開発委員会



人財開発委員会（高橋修一委員長）は、建設業の外国人材受け入れの勉強会を7月18日に開きました。新たな外国人材の受入制度が今年4月から始まったことを踏まえ、受け入れの現状や留意点などを研修。留意点としては、外国人をパートナーとして処遇すること、トラブル事例を把握することなどの説明がありました。

担い手確保工事を研修

土木委員会



土木委員会（梅原基弘委員長）では、第3回会合を7月23日に開催しました。県が取り組んでいる「担い手確保のために実施する工事」（ICT施工、完全週休二日制、快適トイレ設置）、県土木部の総合評価方式などについて県から説明を受けました。さらに質疑などを行い、理解を深めました。

豪雨想定し、状況確認を実施

県土木部と
防災訓練

本会は7月3日、茨城県土木部との災害協定に基づき、豪雨災害を想定した防災訓練を実施しました。ドローンによる被災箇所の状況確認や道路啓開、情報伝達訓練などを行い、災害発生時に備えました。

県からの要請に基づき本会では、被災現場の緊



ドローンで被災状況を確認しました

急パトロールを実施。GPS機能付き携帯端末カメラで被災箇所の写真を撮影し、電子メールで災害時情報共有化システムへ送信しました。

ドローンによる被災状況確認では、牛久市久野町（乙戸川桂川合流部）を被災想定箇所とし、上空から動画を撮影。インターネット動画サイトにアップロードしました。

道路啓開訓練では、市道銚田大洋線（銚田市二重作）と国道354号バイパス（境町山崎）で、災害対策基本法の改正に対応した車両の移動を実施。本会が看板設置などにより一般車両を誘導したほか、県緊急作業用自動車協会および日本自動車連盟茨城支部の協力でレッカー車による放置車両の移動を行いました。

土木工事の実行予算 作成実務講習会



本会は、県土木施工管理技士会や建設物価調査会との共催による土木工事实行予算作成実務講習会を7月19日に水戸市の県建設技術研修センターで開催しました。参加した会員企業の技術者は実行予算の重要性や作成方法を研修し、実践的な演習も行い、実行予算による利益追求のポイントを学びました。

CALS/ECを研修 スキルアップセミナー



本会は会員の従業員を対象とした「スキルアップセミナー」を7月30日から3日間、水戸市の茨城県建設技術研修センターで開催しました。約50人がCALS/ECをテーマに、Windows10の基本設定からクラウドサービスまでを研修し、工事書類や工事写真の作成・管理方法に活用する方法を学びました。

支 部 活 動 報 告

鉾田支部

鉾田工事事務所と
工期などで意見交換

鉾田支部（羽生義隆支部長）は茨城県鉾田工事事務所との意見交換会を6月18日に実施。4週8休制導入について余裕ある工期の設定を求めました。ICT活用工事などについても意見を交わしました。

大子支部



熱中症対策を研修

大子支部（大藤博文支部長）は6月25日、安全管理研修会を支部会館で開き、熱中症予防と対策、健康管理について学びました。大藤支部長は「労働災害の防止には、安全管理や安全パトロールの実施を徹底し、全員で安全について考えていくことが必要。熱中症対策を徹底していただきたい」とあいさつしました。

潮来支部

全員で無事故誓う
安全大会、安全管理研修会

潮来支部（松崎里志支部長）は6月25日、第17回鹿行地区建設業安全大会を鹿嶋市の鹿嶋勤労文化会館で開催。安全表彰や安全講話などを行い、無事故・無災害を再確認しました。大会後には安全管理研修会も開き、草刈払機やハンマーナイフの適切な取り扱いの実技研修を行いました。

常総支部



女性職員が研修視察

常総支部（中川原勇支部長）は6月26日、会員企業の女性職員の研修視察を行いました。さいたま造幣局で勲章や褒章の製作工程、造幣さいたま博物館を見学しましたほか、東京・柴又で寅さん記念館などを訪れ、職員同士の親睦を深めました。

太田支部



献血活動に協力

太田支部（瀬谷實支部長）は7月3日、献血活動に協力しました。呼び掛けに応えた会員企業などから112人が参加。瀬谷支部長は「今後も社会貢献を続けてまいります」と話しています。献血活動は平成26年度から社会貢献活動の一環として継続して行っています。

高萩支部



道路美化活動に汗

高萩支部（秋山光伯支部長）は7月5日、日立市の国道245号沿いで美化活動を行いました。約80人がコキアやマリーゴールド、ニチニチソウの苗を植え、美しい道路環境づくりに汗を流しました。

「建設フェスタ2019」 11月2日(土)に開催

笠松運動公園特設会場

「建設フェスタ 2019」の実行委員会（実行委員長＝大曾根理一郎 本会建設未来協議会会長）が7月16日に開かれ、今回の建設フェスタを11月2日（土）、ひたちなか市の笠松運動公園の屋内水泳プール西側特設会場で開催することを承認しました。

大曾根実行委員長はあいさつで「建設フェスタの開催を通じ、建設産業の魅力を地道に継続して伝えていくことが課題解決につながると確信しています。本年度の建設フェスタにもご協力をお願いします」と呼び掛けました。

議事ではスケジュールや予算などを承認。大成功へ向けて準備を進めていくことを確認しました。

建設フェスタは、県内の官民の建設関係団体が建設業の魅力を発信するため平成6年度から毎年開催しています。

小学生が建設業体験

現場見学会に協力



本会では7月12日、松崎建設(株)（潮来支部）が施工している東関道四鹿地区跨道橋下部工事（行方市）の現場見学会に協力しました。行方市立麻生東小学校の5年生約40人を招き、重機の試乗、VRゴーグルによる安全確認などを体験してもらいました。

本会では今後も、建設業の役割や重要性を幅広く発信していきます。

会員の動向

〈代表者変更〉

- ▽ 竜ヶ崎支部
常磐建設(株) 佐藤 悟 → 佐々木 孝夫

〈新規入会〉

- ▽ 潮来支部
 (株)富山園建設
 代 表 者 富山 義雄
 住 所 〒 314-0036
 茨城県鹿嶋市大船津 2223
 電話番号 0299-82-0516
 ファクス番号 0299-82-0773

ちよつと言



ゴルフの「全英女子オープン」で20歳の渋野日向子が海外メジャー制覇という大偉業を成し遂げました。最終日はテレビの前で応援していましたが、序盤で4パットのダブルボギーを喫し、首位から陥落。しかしプレッシャーがかかる優勝争いのサンデーバック9で輝きを放ち、最終18番で強気のパットがカップに吸い込まれ快挙を達成。日本人42年ぶりのメジャー女王が誕生しました。伸び伸びと笑顔でプレーする彼女の姿は、これまでメジャー大会という大舞台で勝てそうで勝てなかった日本人選手たちと比べて、全く違うように感じられました。(S)